

ひまわりの
咲く地に平和を

武力によらない平和を求めて

七月参議院選・社民党の議席確保を!!

2月24日に発生したロシアのウクライナ侵略は、ウクライナの子ども、女性、そして高齢者をはじめ多くの民間人の命を奪い続けています。さらにその残虐な行為は、国際法に触れる「戦争犯罪」そのものです。

そして、あらためて私たちはあの世界大戦における東京大空襲を思い出します。一夜にして10万余人の命が奪われました。その米国の空爆作戦は、江戸時代に頻発した江戸の大火や、1923年の関東大震災の検証を行う中で火元・風向き・延焼状況・被災実態などが詳細に分析されました。その結果として、木造住宅が密集する日本の大都市は火災に対し脆弱であり、焼夷弾による空襲が、最も大規模な破壊を効果的に与えることができると結論を出しました。

そして、具体的な空爆対象地域の選定に際しては、人口密度・火災による破壊度・輸送機関と工場の配置などの要素が徹底的に検討され、それをもって爆弾爆撃の有効度が計算され、特に重視されたのは人口密度であったと言われています。(アメリカ力経済戦争局「日本の都市に対する

大規模攻撃の経済的意義」より)

戦火は。野火のごとく犠牲が広まる

戦争とは一旦戦火が切られたら、民間人であることが、無かるうが、その別なく犠牲を伴うものであることを私たちは学び取っています。

世界大戦終了後、そして冷戦時代を経て世界各地で発生した戦乱は少なくなき、大きな犠牲を伴ってきました。そして今般のロシアにおけるウクライナ支配が成功すれば、それが世界標準となり、大国による小国略奪が許され、秩序なき弱肉強食の時代となる恐れ」をウクライナ問題は私たちに提起をしていると考えます。このことを知るがゆえに、戦争は起こしてはならない、戦争に巻き込まれてはならないということを一歩よく知っているのも私たち日本国民であります。

アフガンで命を落とした「中村哲医師」が語った次の言葉があります。「アフガニスタンにいて『軍事力があれば我が身を守れる』というのが迷信であることがわかる。敵を作らず、平和な信頼関係を築くことが一番の安全保障だと肌身で感じる。現に日本人だから命拾いしたことが何度もあった。憲法9条は日本に暮らす人々が思っている以上にリアルであり、大きな力で僕たちを守ってくれるんです」と。

「戦火を交える事がなかった77年」。そのことを

を交える事がなかった77年」。中村医師は「平和憲法を有する日本」の財産として世界に広めました。そして世界の人々は、中村医師を「歩く平和憲法」と称してきたことを知るべきです。

しかしウクライナから8000キロ離れた日本において、現在日常的に報じられているマスコミのウクライナ報道は、軍事評論家や防衛省関係者の出演により、いつしか「勝ち、負け」あるいは「軍事力の優劣」に関心を寄せる「ウクライナの戦況報道」になっていることに危機感を持ちます。

確かに、ウクライナ国民に対するロシアの残虐行為に対する怒りは高まっています。また、岸田政権のウクライナ支援もかつてない、画期的なものとなつています。そのことが国論を二分化するかのような様相が生まれていることを見逃すことはできません。

軍事国債・子や孫に借金を背負わせるのか

それが「核をめぐる国のあり方問題」であり、例えば安倍前首相の「日銀は、政府の子会社なのだから60年で国債の満期が来ても、返さないうで借り換えても構わない。心配する必要はないです」との発言を裏打ちするかのよう「防衛国債の発行と軍事予算の倍増論」などの強弁を見、聴きするときに「いつか来た道をたどりつつある」とへの強い危機感を持ちます。

しかもここに来て、6月12日朝のフジテレビの「日曜報道」で、自民党・高市政調会長は「対外的に日本の強い意志を示す」という意味で、必要

なものを積み上げていったら、どちらにしても10兆円規模にはなっていく」と述べています。

「軍事力の強化に強い意志を示す」ということは、周辺諸国との間に緊張を高め、強いては先制攻撃を引き起こす要因になることは間違いありません。

「戦争を起こさない」ことが第一です。

そのためにも周辺諸国(国民)との文化、医療・介護、災害、難民救済、食糧危機などを通じた支援交流、相互援助による「平和外交」に徹することこそ、大戦の戦後反省にたつた私たち日本の「道」であると確信します。また、そのことを今般のウクライナの危機から学ぶことだと考えます。

7月参議院選挙も迫っています。社民党にとっては「発言の場を構築できるか、どうか」が問われる決戦の場です。皆さんの「居間からの知人・友人へ社民党支持の呼びかけをお願い致します。

社民党全国比例

久保 孝喜候補の理念

- ◆ 武力によらない平和を。
- ◆ 人権や尊厳が守られ、自らの人生を実現していく自由を。
- ◆ 一切の差別を否定し、すべての人々に社会参加の機会と権利を保障する平等を。
- ◆ アジアや世界の人々との共存、自然環境との調和を目指す共生を。

6月22日公示・7月10日投開票の参議院選比例区に挑戦をする「久保孝喜さん」の「私の決意と政策、その原点」を紹介します。

その決意の冒頭に、久保さんは「自分たちで命を守った私の故郷・沢内村」というタイトルで出身地である岩手県沢内村の歴史に触れています。

そしてそのことが「私の原点」であると述べていました。その「原点」とは何か。そのことを報告し、「久保孝喜候補の人となり」に触れて、皆さんのご支援をお願いいたします。

「岩手県沢内村(現西和賀町)は、その昔、多病多死貧困の村として全国でも最悪の生活環境にありました。特に新生児死亡率は全国最高値と言つてよく、0.08つまり1000人の新生児が生まれると、80人が亡くなる状況にありました。

何と言つても全国有数の豪雪地帯、冬になれば交通が途絶し完全に孤立、その上に無医村です。村民が「まるで石ころのように」死んでいくと語られていました。その村に「新生児死亡率をゼロにする!」と遠大な理想を掲げたりーダーが登場します。その人が深沢晟雄村長でした。深沢が、村長に就任した1957(昭和32)年は、新生児死亡が70人でしたが、わずか2年で約3分の1まで減少させ全国平均以下になりました。そして1962(昭和37)年、村長に就任して5年で乳児死亡率ゼロを達成いたします。述べてきましたように沢内は豪雪、多病多死、貧困の三重苦の村でした。村長になった深沢は一つのことを胸に刻みます。

「この村に生まれてよかつたではなく、生きてよかつたと思える村にしたい」と。

そして乳児死亡率ゼロを達成したことにとどま

らず、年寄りに対する手厚い保護である60歳以上の医療費無料化。そして1960年(昭和35年)には65歳以上の高齢者医療費の無料化を国に先がけて踏み切り実施をしました。

(日刊SPA! PLUS 東北の一村長に学ぶ「生命尊重」深沢晟雄の信念・2020年より)

久保候補の「原点」とは、「この村で生きていてよかつた」であり、そのことは「東北の地で生きていたよかつた」という政治の実現」を図りたいとの決意に触れていることです。

終わりに、アメリカ元大統領、ジョン・F・ケネディが次の就任演説を追記致します。『私の好きな言葉があります。それは国が、諸君のために何を為すのかを問い給うな。諸君らが、この国のために何を為すのかを問い給え』と。つまり、国をよくするのはあなた方一人ひとりだ、国に何かしてもらおうと期待するのではなく、自分たちが当事者として何を為すべきかを自問自答してほしい』との言葉です。

まさに国の主人公は国民です。「私たちが何をなすべきか」。その選択が7月10日の私たちの一票にかかわっていると受け止めたいと思います。

「曲がり角にある国の政治」に対し、主権者として、その改革をはかる責任を果たしましょう。

野党統一候補の議席が国会を変えます

福島選挙区候補者

小野寺あきこさん(無所属)

福島県喜多方出身・郡山市在住
フリーアナウンサー

【「たひんぐ」】

気づいたこと、感じたこと

強弁を繰り返した答弁の裏に

非正規労働者の拡大

成長と効率を優先させてきた安倍政権の国会審議を振り返ってみます。そして「雇用は確実に拡大をしています」との強弁を繰り返す安倍首相の言葉でした。しかしその雇用拡大は「であり、その比率は全労働者の4割を占めるものになっていました。(労働力調査集計より、次表を参照)



そして雇用の調整弁となった非正規労働者は、新型コロナ禍の拡大の中で次々と職を失いました。そこに誕生をした岸田首相は「分配無くして成長はなしとする新しい資本主義」を掲げ、「国民の声を丁寧に聴く政治」を表看板として誕生しました。

しかし、その政策は、弱い立場の国民の不安をなくすことではなく、「富める者を更に豊にする」というものであることが明確になりました。それが投資環境を改革し、個人の金融資産を「貯蓄から投資」にまわすというものであることをもつても明らかであります。それは資産所得への課税強化を棚

上げにして、逆に資産所得を倍増させるものです。まさに富裕層ほど資産所得を増やすものとなるでしょう。

それに引き換え、昨今の物価高はますます低所得者、職を失った人々の生活を直撃しています。さらに、政府主導で実施されている賃上げは、本来の構造改革を投げ捨て、賃上げ企業への減税策という小手先の財政政策で対応しようとするものです。未来永劫、賃金引き上げのための企業減税を続けるのでしょうか。

そして私たちは「学校給食が唯一の栄養補給源」と言われる子どもたちのことを忘れることができません。

介護の時代を迎えて考えること

読者の一人にお電話差し上げました。しかし、丁度母親の介護えとのこと、後日ということ電話を切りました。そこで頂いたメールには次の報告が書かれていました。

「母親の食事中で失礼しました。食後や投薬後に必ず歯磨きうがいをさせています。まず部分入歯をみががせ、うがい。次に自分の歯をみがかせてうがいという具合です。もちろん寝る前のトイレ、そして尿取りパット夜用に交換もありません。毛布をかけたあと「手をにぎる運動百回」、大声で呼びかけてやってもらいます」と。日常的な介護の姿を想像し、誰でもが体験するだろう「介護」の実態をあらためて痛感しました。

同時に、郡山地区の会の会員、Kさんのことを報告したいとおもいます。

子ども一人、その長男は東京住まい。そしてKさんは妻の介護を8年間続けていました。寝たきりになると「誤飲」が心配です。そこで、その防止のために次の運動を続けているとの報告を受けました。

口とあの運動

- (1) 「あー」と発声しながら、大きく口を開く
- (2) 「うー」と発声しながら、唇を前に突き出す
- (3) 「いー」と発声しながら、口角を横に引く
- (4) 再度、「うー」と発声しながら、唇を前に突き出す

そして入院先の部屋を毎日訪れては「新聞を読んでやっている」と。「病院にいると世間の動きがわからなくなるから」というのがその理由でした。そして妻を見送った後、しばらくして介護施設に入所。その後の連絡は一切なく交流も途切れました。多分長男の近くに行かれたのでしょう。そして2年前、その長男から丁重な訃報の連絡がありました。

長寿社会における「介護問題」は深刻です。ともすると、私たちは「大事な問題は後回し」にします。勇気をもって「自分の問題」だけではなく、高齢者みんなの「共有する問題」として共に考える習慣を持ちたいものです。



報告・提言のひろば



■桜が終わったらもう入梅、本当に早いです。コロナ騒動でここ数年季節のうつろい感覚が大分鈍くなった気がします。しかしながら季節は関係なく流れます。町内の「ボランティア」活動で「高齢独居家庭」の庭の除草を行いました。来月からは通勤、通学路の刈払機による除草、シロアリの消毒作業を予定しています。高齢化対策、そして町内の融和を目的に微力ながらの協力です。今夏の参議院選挙、頑張りましょう。

■ウクライナ問題の報道は同感です。米国のバイデン大統領がウクライナ問題、台湾有事で元氣なように見えます。米国の兵器産業はぼるもうけ、朝鮮戦争時の日本の特需と似ています。

■ニュース送信ありがとうございます。炬燵やストーブを片付けてすっかり夏気分を味わっています。6月22日の参院選の告示予定の月に入ろうとしています。大分県は、国民民主の足立信也(現職)を大分方式と呼ばれる連合大分の6者協議の方針を尊重して、積極的に支援することにしています。前回は、「安達澄」を同じ方式で当選させ、裏も表も「革新」で押さえていますので、自民党も必死です。ロシアのウクライナ侵略戦争を利用して、憲法改正や防衛費2%、核共有などを絶対に許してはなりません。共に頑張りましょう。■参議院東京選挙区に服部幹事長が候補者となりました。年をつくづく感じるこの

頃ですが、昨日今日で、新報の号外を100枚配布し終えたところです。これからは朝夕の駅前での街頭宣伝を公示まで一日おきにやります。日前に友人の奥さんが救急車で病院に運ばれました。それまではデーターサービスやシウヨトステイ、訪問介護などによって自宅で生活していましたが、日前に訪問した看護師が酸素の量を測ったところ60以上にならず、救急車を呼んで病院に行つたところ体力も落ちているので入院。様々な検査をしたところ、大腸がんになっていたことがわかりました。は高齢者の介護については、注意をしながら見守ることが必要なのでしょうが、短い時間で何人もの人たちを介護している実態がありません。施設介護や訪問介護における医療機関との連携など改善すべきことが多々あります。老々介護の限界や一人暮らしの高齢者に対する対策が必要であることを痛感しています。

■最近を意識する、しないに関わらず、常にウクライナのことを頭の片隅にあつて、気分を悪くしているような気がします。ロシアのウクライナ侵略から学ぶべきことは、ニュースの記事も、また読者の声も、多くが指摘されている通りだと思えます。かつて岡部伊都子さんの講演を聞き「私は愛国少女だった」と話をされていたことを思い出しました。国民を一つの方向に向けさせ、ナショナリズムが高揚すれば、逆に権力者すら縛つてゆくことになります。それを止めるにはメディアが健全でなければならぬことも再認識させられた気がします。閣議決定予定の、いわゆる「骨太の

方針(原案)が示されたので斜め読みしてみました。昨年12月の「新しい資本主義」は中身の無いプレゼン資料でしたが、それでもまだ所得再分配の見直しという看板があつたように思います。それが「骨太の方針」では資本所得倍増計画など、株式市場を重視する政策に軸足が移つていようです。アベノミクスの微修正からアベノミクスへの回帰に舵を切つたと思えません。そのことは野村総研の記事でも指摘されていきました。安倍元総理がアベノミクスに対する批判に腹を立てたという記事を見ましたが、政権が変わらなければ従来の流れを変えることはできないのだと再確認させられます。コロナの感染状況は、足元では少しずつながら減つていようですが、入国制限の緩和や、新たな変異株の可能性など、まだまだ安心できる状況にはないようですね。どうか、くれぐれもお気をつけて元氣でお過ごしください。

■「有権者から『平和外交をしつかり』という言葉では不安だ。『攻撃されたら、どうする』『侵略に備えるための軍備は必要』ではないかと問われました。どう答えるのか?」と。あらためてしっかりと答える言葉を用意しなければならぬことを痛感しました。



カンパの協力ありがとうございます。

社民党喜多方耶麻総支部・及び会津両沼地区のニュース読者から合わせて1万円のカンパをいただきました。